

第55回 特別展

よみがえれ！恐竜たち —大むかしの^{いのち}生命をさぐる—

目次

1 はじめに	1
2 化石とは	2
3 化石でたどる生きものたちの歴史	6
4 三葉虫 世界中の海に栄えた変なやつ	14
5 アンモナイト ぐるぐる巻のイカの祖先	22
6 恐竜 史上最大の陸上動物	30
特別寄稿 最新恐竜学	48
7 化石からよみがえる！大むかしの長野	52
8 化石がかたる未来	56
展示資料リスト	58
謝辞	62



凡例

- 1 この本は、平成24年7月21日から9月23日まで開催の長野市立博物館第55回特別展「よみがえれ！恐竜たち～大むかしの生命をさぐる～」の解説図録です。
- 2 図版は展示資料の一部を掲載しました。展示の順序とは一致していません。
- 3 掲載した写真のうち展示標本については、末尾の展示標本リストに掲載ページを記しました。
- 4 図録には、国立科学博物館研究主幹真鍋 真博士より玉稿をいただきました。また、恐竜造形作家の荒木一成氏の作品を多数掲載しています。今回の特別展では、資料や画像の提供などで巻末に記した多くの関係機関や個人にお世話になりました。
- 5 この本は、小学校5年生を対象にして執筆・編集したものです。そのため、参考にした文献等については省略させていただきました。
- 6 執筆や撮影は当館学芸員 田辺智隆・成田 健・畠山幸司 専門員 古賀和人・作本憩彦・中村千賀が分担しました。編集作業は田辺・作本・中村が担当しました。



はじめに

地球にくらす生きものは、長い歴史をもっています。その中で、栄えたり滅びたりを繰り返しながら、姿や形、大きさを変え、いろいろな種類がふえてきました。このような生命の進化の歴史を知る手がかりが「化石」です。

長野市内からも今では滅びてしまったクジラやセイウチ、ゾウなどをはじめ、ホタテガイなどの化石が多く見つかっています。これらの化石から、約500～400万年前の長野が海だったことを知ることができます。

しかし、4,000,000,000年にもわたる生命の歴史からみると、5,000,000年という時間はつい最近のできごとです。それより大むかしにも、いろいろな生命が栄えていました。その代表が三葉虫・アンモナイト・恐竜などです。世界中に栄えた時代をもつこれらも、絶滅してしまい、その生きている姿をもう見ることはできません。生きもの同士の競争や、いん石の衝突、火山の噴火などによる気候や環境の大きな変化が原因のようです。

今回の長野市立博物館の特別展では「よみがえれ！恐竜たち ～大むかしの^{いのち}生命をさぐる～」と題して、三葉虫やアンモナイト、恐竜など、大むかしの地球上に栄えた代表的な生きものに焦点をあててみました。県内の博物館では初公開となるティラノサウルス全身骨格やフタバスズキリュウなどの化石を展示します。化石をもとに、地球上の生命がどのように移り変わってきたのかを考えてほしいと思います。また、生きものの体の作りの精巧さやダイナミックさを実感していただき、滅びてしまった生きものへの想像をふくらませてほしいと思います。さらに、私たち自身がひきおこしている環境破壊により、未来を変えてしまっていることにも思いをはせてください。

長野市立博物館



フタバスズキリュウの発掘現場（1968年）（長谷川 善和氏 提供）